



福島さん

**軍のあるまち月寒**  
**外岡** 月寒には歩兵連隊が駐在し、陸軍病院や官舎などの施設もたくさんあって、軍人が大勢いました。私は、月寒に住んでいましたが、軍の偉い人に道で会うと、立ち止まって、お辞儀をしたものです。  
**福島** 私の家は、月寒で農家やまちの人を相手に日用雑貨を売っていました。向かいの店は、軍の将校の家に行き、注文を取って商売

元「女子通信隊員」が語る



左から、<sup>ながらあきこ</sup>長柄昭子さん、<sup>ふくしまよしえ</sup>福島淑江さん、<sup>そとおかたえこ</sup>外岡妙子さん

太平洋戦争当時、女子通信に任された3人に、月寒の暮らしや、そのころの様子などを語っていただきました。

**長柄** 周りに住んでいる人は、防空作戦室が、何をやる施設かは、全く知らなかったようです。  
**福島** 軍に関係することは

防空作戦室

**外岡** 当時、バスの燃料は木炭でした。月寒の坂道を登れないことがあり、そんな時、乗客は降りてみんなバスを押ししましたね。  
**福島** 軍の敷地には、許可がないと入れませんでした。だから、まちの人は、広大な敷地の周りをぐるっと回らなければ、反対側に行けませんでした。

女子通信隊

**秘密でしたから。**  
**外岡** 施設の写真を撮ることも禁止されていました。  
**長柄** 防空作戦室の屋上は、敵の飛行機から発見されないように、草を生やしていました。



外岡さん

**仕事については、家族にも話してはいけなないと、最初に言われました。**  
**外岡** 周りから、どんな仕事をしているのか聞かれることもなかったですね。  
**長柄** 当時は、軍人でなく

でも、みんな、軍の仕事をしていたから。  
**福島** 夜中に勤務の交代があるのですが、眠たくてつらかったですね。  
**長柄** 勤務には、日中、早番、遅番の三つがあつて、夜中の二時から仕事をする時がありました。  
**外岡** みんなでよく、一日ゆっくり眠りたいと話をしていました。  
**長柄** 休日もありました。教育日といっていました。  
**外岡** 映画が一番の楽しみでした。朝まで仕事をして、寝ないでそのまま見に行ったりしました。

空襲のあった日

**長柄** 札幌に空襲があつた時は、通勤の途中でした。月寒近辺を歩いていたので、近くの家の防空壕に入れてもらいました。ちよつと振り向いたら、敵の飛行機が、ゴーツと来るのが見えて、



長柄さん

北海道空襲

1945（昭和20）年7月14日、全道各地で米軍による攻撃が行われました。翌15日には、札幌に空襲があり、丘珠の陸軍飛行場では、死者1人、負傷者1人が出ました。また、国鉄の苗穂工場なども爆撃を受けました。この2日間での道内の被害は、79市町村、6,680戸に及び、死者1,958人、負傷者970人、被災者3万3,400人と推定されました。

最後に

**外岡** 今の人は、平和に慣れてしまっていますが、過去に戦争があつたことを忘れないように、子どもや孫に伝えて、史実を残していきたいと思えます。

それはそれは恐ろしかったですね。  
**外岡** 私は家族と月寒の神社のそばにあつた防空壕に避難しました。ただ、その日は出勤日だったので、「もしかしたらもう家族には会えないかもしれない」との思いを胸にしなから、意を決して外に出て、作戦室に向かいました。

